nhkso.or.jp

©NHK Symphony Orchestra, Tokyo　All right reserved.

オーケストラってなあに?

What's an Orchestra?

NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

オーケストラは
たくさんの人たちの
愛情がつまった音楽。
だから感動が深い

オーケストラはたくさんの人が力を合わせて作り出す音楽。
楽器の演奏者だけでなく、指揮者やソリスト、合唱団、
そして裏方として支える人々…。
それぞれが大切な役割を持っていて、すばらしい音楽を
作りだすために、みんな一生懸命努力しています。
そう、オーケストラの音楽には、
たくさんの人々の思いや愛情が、たくさんつまっています。
この愛情が、私たちを深い感動に導いてくれるのです。

もくじ
Contents

オーケストラのすごいところ 02
オーケストラの楽器のならびかた 04
オーケストラの楽器
弦楽器 06
木管楽器 08
金管楽器 10
打楽器 12
ハープ/鍵盤楽器 13
オーケストラをもっとくわしく知ろう 14
N響のひみつ 16
マナー講座 19

オーケストラのすごいところ

それは「ナマ音」を楽しむ音楽であること

オーケストラは、マイクでひろった音をスピーカーで大きくしません。
オーケストラはたくさんのメンバーが一緒に合奏するので、
ようやくきこえるかすかな音から、おなかの底にひびく迫力ある音まで、
その表現力は無限。演奏者が愛情こめて作り出した音が、
直接あなたのからだをつつんでくれます。
N響のコンサートでおいてあるマイクは放送用のもの。
テレビやラジオを通じても、演奏を楽しめます。

NHK交響楽団　指揮：ファビオ・ルイージ（NHKホール）

オーケストラの楽器のならびかた

オーケストラでは、どこにどの楽器の奏者がすわるのか、ほぼ決まっています。オーケストラごと、あるいは指揮者の指示によってそのならびかたがかわることがあり、音のきこえかたも違ってきます。ひとつひとつの楽器については、6〜13ページも見てください。

指揮者

ひとり客席に背中をむけて、オーケストラに向かって指揮棒をふっている人。コンサートで曲のはじまりやテンポをしめすだけでなく、練習でどのような音楽に仕上げていくのか指示をだしてまとめていく、音楽作りのいちばんの中心となる人です。スポーツで言えば、練習のメニューを立て、ゲームの戦術を指示する「監督」とおなじ役割です。

打楽器

弦楽器

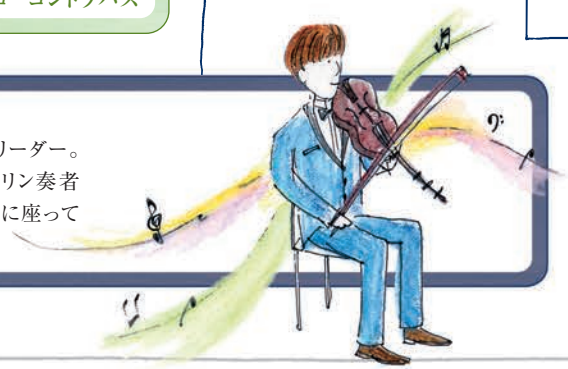
※上の配置はNHK交響楽団の標準的な並び方の一例で、異なる並び方の場合もあります。

金管楽器

木管楽器

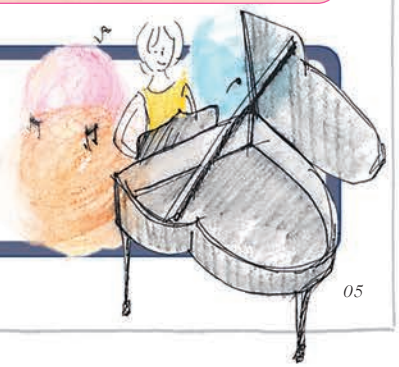
コンサートマスター

オーケストラ・メンバーのリーダー。多くの場合、第1ヴァイオリン奏者がつとめ、指揮者の左前に座っています。



ソリスト

オーケストラをバックに、1人で演奏したり歌ったりする人のこと（2人以上の場合もあります）。楽器奏者がソリストをつとめる場合、いちばん使われることが多い楽器はピアノとヴァイオリンです。



オーケストラの楽器

String

弦楽器

楽器に張ってある糸（=弦）を弓でこすったり、指ではじいたりして音を出すので弦楽器といいます。オーケストラでつかわれる弦楽器はヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスの4つですが、仕組みや演奏方法などに似ているところも多いことから、まとめて「ヴァイオリン属」と呼ばれることもあります。

オーケストラの弦楽器に共通すること

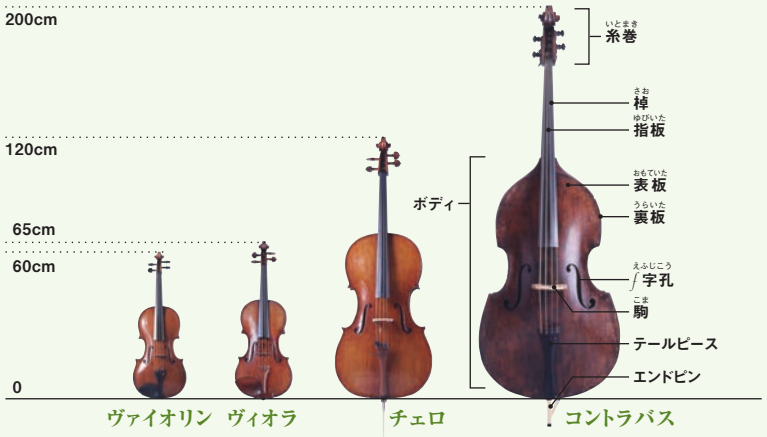
[弦] 楽器には太さの違う4本の弦が張ってあります。ただしコントラバスは低い音域を広げるために、5本弦を張ってあることがあります。

[弓] 木の棒に馬のしっぽの毛を張った「弓」を弦にこすり合わせて音を出します。

ヴァイオリンの弓

ヴァイオリン属

※楽器の高さはおおよそです。



ヴァイオリン

なんといってもオーケストラの中心

弦楽器の中でいちばん高い音を担当している**ヴァイオリン**は、オーケストラでは「第1」と「第2」という2つのパートに分かれて演奏します。華やかな音色を生かしてメロディーを奏でるのが得意です。オーケストラの中で一番奏者の数が多く、N響の場合、全メンバーのうち1／3近くがヴァイオリン奏者です。まちがいなくオーケストラの中心楽器です。

ヴィオラ

深みのある音色が魅力

ヴァイオリンよりひとまわり大きい**ヴィオラ**は、合唱でいえばアルトあるいはテノールの音域を担当する、深みのある音色が美しい楽器です。オーケストラの広がりと迫力のあるサウンドを作り出す上で果たす役割はとても大きく、この楽器がオーケストラ全体の雰囲気を決めるといってもよいでしょう。

チェロ

なんでもこなすオールマイティな楽器

中低音を担当する**チェロ**は1mをこえる長さがあり、楽器をたてにしてその胴体をエンドピンで支え、両足で楽器をはさむようにして演奏します。豊かな表現力でメロディを自在に演奏するいっぽうで、コントラバスといっしょになって低音でオーケストラ全体を支えるなど、いろいろな役割をこなすことができる楽器です。

コントラバス

この楽器の出す低音がオーケストラを支えています

左のページのヴァイオリン属の形をくらべてみてください。**コントラバス**だけが「なで肩」であるのがわかりますか?これはコントラバスだけが別の弦楽器の仲間だったからです。時代とともにヴァイオリン属に近づいてきましたが、その形に歴史をとどめているのです。コントラバスが出す低音はオーケストラがハーモニーをかたち作る上でぜったいに欠かせないものです。

Woodwind

木管楽器

「ふえ」の仲間の楽器。管に息を吹き込んで音を出します。
木で作られていることが多いことから、
「木管楽器」といいます。

フルート

鳥の声にもたとえられる美しい音色

最近の**フルート**は金属で作られることが多いのですが、むかしは木で作られることがほとんどでした。それで今でも木管楽器の仲間に組み入れられています。鳥の声にもたとえられる、軽やかな音色が美しい楽器です。フルートの仲間の**ピッコロ**（イタリア語で「小さな」という意味）は、この楽器1本だけで、オーケストラ全体を圧倒する、強烈な音を出すことができます。

フルート

クラリネット

音色を自在に変える表情豊かな楽器

クラリネットは深みのある音から楽しげな音まで、奏者の思い通りにさまざまな音色を出すことができる表情豊かな楽器です。高い音を担当する**小クラリネット**、反対に低い音が出る**バス・クラリネット**もオーケストラによく登場します。クラリネットと似た仕組みを持つ金属製の楽器で、ポピュラー音楽や吹奏楽では欠かすことができない**サクソフォーン**がソロ楽器として登場することもあります。

クラリネット

オーボエ

管楽器でただ1つ息があまって苦しい楽器

管楽器は、演奏中に息が足りなくなって、吹いている人が苦しくなるのがふつうです。しかし**オーボエ**は空気の通り道がたった4mmしかなく、息があまってしまって苦しくなるという、めずらしい楽器です。その音色は物悲しさに満ちていて、作曲家たちはこの楽器のために美しいメロディーを作曲し続けてきました。オーボエの仲間で、より低く、深い音を出す**イングリッシュ・ホルン**もよくオーケストラで使われます。

オーボエ

ファゴット

全部のばすと260cmのノッポさん

木管楽器の中で、いちばん低い音域を担当しているのが**ファゴット**。重々しい低音とメロディーを朗々と歌い上げる高音の対比があざやかで、しかもとぼけた味も出すことができるなど、さまざまな表情をもった楽器です。その見かけ上の長さは135cm前後ですが、実は管がU字型に折り曲げられていて全部のばせば260cm。さらに低い音域を担当するファゴットの仲間、**コントラファゴット**の長さは、全部のばせば590cmにもなります。

ファゴット

Brass

金管楽器

「ラッパ」の仲間で、くちびるをふるわせて音を出します。
金属の管に息を入れて音を出すので金管楽器といいます。

ホルン

ホルン

ご先祖様は「つの」でした

「**ホルン**」という言葉のもともとの意味は、動物の「つの」のこと。狩人たちがおたがいの位置を知らせあうために、「つの」を森でふきあっていました。やがて、このつの笛は金属で作られるようになり、現在の形に発展していきました。現在のホルンは金管楽器にもかかわらず、やわらかいひびきの音を出すのが得意で、弦楽器や木管楽器とも音がよくまじり合い、古くからオーケストラに取り入れられてきました。

トロンボーン

3本そろって美しいハーモニーをかなでます

伸び縮み自在な「スライド」を動かすことによって管の長さを変えて音の高さを調節するのが**トロンボーン**のおもしろいところ。大きな音から小さな音まで自在に出せる表現力豊かな楽器ですが、オーケストラでは3人のトロンボーン奏者でトリオを組んで、メロディーの裏側でハーモニーをかなでている様子にぜひ注目してください。このトロンボーンの地道ながんばりが、オーケストラ全体を盛り立てます。

テナーバス・トロンボーン

トランペット

オーケストラでもっとも目立つ楽器

金管楽器でいちばん高い音を担当する**トランペット**は、オーケストラで1番目立つ楽器。華やかなトランペットの音色がひびき渡った瞬間、ホールの雰囲気も一気にもりあがります。トランペット奏者は曲目に応じて**ピストン型**と**ロータリー型**のトランペットを吹き分けるほか、より高い音を出せる**ピッコロ・トランペット**、すばやい動きが得意な**コルネット**などを演奏することもあります。

ピストン型トランペット

テューバ

ひと吹きしただけでオーケストラ・サウンドが一変

金管楽器でもっとも低い音域を担当する**テューバ**は、オーケストラではたったひとりだけで演奏することがほとんど。トロンボーンやそのほかの低音楽器と協力して、オーケストラのサウンドを支えています。しかしその存在感は格別で、1本入るだけでオーケストラ全体のサウンドが一変します。テューバの仲間の**ユーフォニアム**という楽器は、吹奏楽では欠かせない楽器の1つです。

テューバ

Percussion

打楽器

「太鼓」や「木琴」の仲間で、ものを打ったり、こすったりして音を出すので「打」楽器といいます。
たくさんの種類の打楽器がオーケストラでつかわれますが、ここではもっとも多く登場する3種類を紹介しましょう。

ティンパニ

太鼓なのにドレミが出せる!

オーケストラでいちばん多く使われる打楽器が**ティンパニ**。ふつう、先端にフェルトなどを巻きつけた2本の木の棒でたたきます。
銅でできた胴体にはった皮の張りぐあいを変えることで、音階を演奏できるのがこの楽器のすごいところ。現代の楽器では、ペダルを操作して音の高さを調節します。

ティンパニ

大太鼓

オーケストラで一番大きな音が出る楽器

トルコの軍楽隊で使われていた楽器に起源をもつ**大太鼓**は、直径が1メートル近くもある巨大な楽器。思いっきりたたくと、オーケストラのどの楽器よりも遠くまで音が飛んで行きます。ベートーヴェンやチャイコフスキーは、大砲が発射された時の音をまねするのにこの楽器を使いました。

大太鼓

シンバル

シンバルにはいろいろな種類があります

大太鼓と同じくトルコの軍楽隊出身の**シンバル**は、2つの金属の円盤を打ち合わせて音を出す「クラッシュ・シンバル」が有名。スタンドにとりつけたものをたたく「サスペンデッド・シンバル」や、音の高さが違う小さなシンバルを鉄琴のようにならべて演奏する「アンティーク・シンバル」などもあります。

クラッシュ・シンバル

ハープ

ペダルで音の高さを調整しています

ハープは弦楽器の一種ですが、弓で弦をこすって音を出すヴァイオリンなどとは違い、指で直接弦をはじいて音を出します。オーケストラで使われるハープは、正式には「グランド・ハープ」と呼ばれているもので、47本の弦が張ってあります。足元には7つのペダルがあって、これを操作して弦の張りぐあいを調節してさまざまな音階で演奏できるようになっています。

グランド・ハープ

鍵盤楽器

チェンバロ・オルガン・チェレスタ・ピアノなど

鍵盤を指で押さえて音を出す「**鍵盤楽器**」もオーケストラで使われます。古い時代の曲には、**チェンバロ**や**オルガン**がよく使われ、チャイコフスキーの《くるみ割り人形》では、鉄琴を鍵盤で操作できるようにした**チェレスタ**のかわいらしい音色が印象的です。20世紀のオーケストラ曲では、**ピアノ**をソロ楽器としてではなく、「音を自在に変えられる打楽器」として使っているような作品もあります。

チェレスタ

オーケストラをもっとくわしく知ろう

Q&A

Q. オーケストラにはいろんな楽器がありますが、どんな楽器でも参加できるの?

A. 使われる楽器はだいたい決まっています

オーケストラのことを日本語では「管弦楽」といいます。
この言葉のとおり、オーケストラは管楽器と弦楽器、そして打楽器をくわえた合奏のことです。ただし、管・弦・打楽器の合奏といっても、使われる楽器はほぼ決まっていて、6ページから13ページまで紹介してきた楽器が使われることがほとんどです。

Q. オーケストラではどんな曲が演奏されるの?

A. クラシックがメインです

オーケストラには「演奏できない曲はない」と言っていいでしょう。
さまざまな楽器の組み合わせで生み出す無限のサウンドは、ポピュラー、ジャズとどんなジャンルにも対応します。
しかしN響をはじめ、多くのオーケストラがふだん演奏しているのは「クラシック」とよばれる音楽です。
これはヨーロッパの「芸術」音楽や、その流れをくむすべての音楽のことで、その有名な作曲家には「音楽の父」バッハや「天才」モーツァルト、「楽聖」ベートーヴェンなど、一度は耳にしたことがある名前ばかりです。

Q. オーケストラでよく演奏される「交響曲」って、いったい何?

A. 「ソナタ形式」をふくむ、4つの部分からなる音楽です

クラシックを代表する音楽で、あの有名なベートーヴェンの「運命」という曲の正式タイトルも「交響曲第5番」といいます。
ふつう「交響曲」は4つの部分(楽章といいます)からできていて、そのうち1つ以上は「ソナタ形式」という方法で作曲されているのがほとんどです。
「ソナタ形式」の楽章では、最初に演奏される2つのメロディーが様々に変化しながら、最後に再現されて曲をしめくくります。

Q. コンサートが始まる前にオーボエがひとりで吹き始めますが何をしているの?

A. チューニングをしています

オーケストラが美しいサウンドをひびかせるためには、すべての楽器の音程をしっかりとそろえることが大事。
オーケストラは演奏を始める前に、オーボエが出す音を基準に音程を合わせます。これをチューニングといいます。
弦楽器は糸巻(6ページ)を調節して弦をゆるめると低い音が、ピンと張ると高い音がでます。また管楽器は、管のつぎ目を抜いて管を長くすると低い音が、深く差しこんで管を短くすると高い音がでます。

「一番」がたくさんあるオーケストラ

N響のひみつ

日本で一番長くプロ活動を続けているオーケストラ

NHK交響楽団の歴史（れきし）

日本で本格的にヨーロッパの音楽が演奏されるようになったのは明治時代に入ってからのこと。やがて、オーケストラは音楽学校や軍隊などに作られましたが、その中で本格的なプロ・オーケストラとして結成されたのがNHK交響楽団の前身の「新交響楽団」で、1926年（昭和2年）10月のことでした。
その後、N響は日本を代表するオーケストラとして長く音楽界をリードしてきました。1960年には、日本のオーケストラとして初めて海外公演を行い、今では世界のトップオーケストラの1つとして、広くその名を知られています。

N響ミニ年表

1926年　指揮者、近衛秀麿（このえひでまろ）を中心に「新交響楽団」を結成
1942年　「日本交響楽団」に楽団名を変更
1951年　NHKのバックアップを受けて「NHK交響楽団」に楽団名を変更
1960年　日本のオーケストラとして初めての海外公演となる、
　　世界一周演奏旅行（12か国24都市）を行う
1986年　定期公演が通算1000回をこえる
2013年　世界的なオーケストラが集まるオーストリアの「ザルツブルク音楽祭」に出演する
2026年　創立100周年

新交響楽団時代
（1927年、はじめてのベートーヴェン「第9」）

世界一周演奏旅行
（1960年、イタリア・ミラノにて）

日本で一番放送（ほうそう）に出演（しゅつえん）しているオーケストラ

NHKとNHK交響楽団

「NHK交響楽団」という名前からもわかるとおり、N響はNHK（日本放送協会）の仲間のオーケストラとして、数多くの放送番組に出演しています。その出演番組は定期公演や年末の「第9」コンサートの中継だけでなく、大河ドラマをはじめ様々な番組のテーマ音楽や、選りすぐりの名曲を5分にまとめてお送りする「名曲アルバム」などの演奏を行っています。

NHK交響楽団が出演する番組はNHKやN響のホームページでご覧いただけます。

▶ NHKホームページ　nhk.or.jp

▶ N響ホームページ　nhkso.or.jp

[NHKとN響が協力して行っていること]

■ 全国各地のコンサート

NHK各放送局とN響が共催して、全国各地でコンサートを行っています。

■ NHKこども音楽クラブ

"N響が学校にやってきた" をキャッチフレーズに、オーケストラのメンバーが全国の小中学校を訪ねてミニコンサートを開いています。

▶ NHKこども音楽クラブホームページ
nhk.or.jp/event/kodomo-ongaku/

日本で一番たくさん「定期公演」を行ってきたオーケストラ
NHK交響楽団のコンサート

プロのオーケストラにとって、「定期公演」は活動の中心となるとても大切な演奏会。N響では1927年に第1回の定期公演を行って以来、第2次世界大戦中の大変な時代も中断することなく続けられ、2023年12月には2000回目をむかえます。これは日本のオーケストラの中でも、とびぬけた回数の多さです。現在、定期公演はA・B・Cの3つのプログラムごとに年間9回、それぞれ2公演ずつ行うので、あわせて年間54公演行われています。

定期公演のほかにも、年末の「第9演奏会」、夏休みの「ほっとコンサート」などの特別公演や、全国各地のコンサートホールでの演奏会も行っています。
また、2020年には、ヨーロッパ7か国9都市をまわるなど、海外公演も行いました。

オーケストラに4人の歌手や合唱団が加わる、年末恒例の「第9」は迫力満点です。(2022年の様子から)

海外でも多くのお客様に演奏をお楽しみいただいています。(2020年3月ウィーン公演の様子から)

「ほっとコンサート」ではロビーで楽器体験できるコーナーも開設することがあります!(2019年の様子から)

「ユースチケット」でコンサートに行こう

オーケストラはやはり生できくのが一番。N響では25歳以下の方へお得な「ユースチケット」を設けています。定期公演では全ての券種で、一般料金から**50%以上**割引されます。

詳細についてはN響ホームページをご覧ください。

▶ N響ホームページ　nhkso.or.jp

「ナマ音」の楽しさを味わうために
みんなで守りたい演奏会のマナー

オーケストラの「ナマ音」を楽しむためには、
みんなで気をつけなくてはならない
約束ごとがあります。
これを「マナー」といいます。
よいマナーで、コンサートを楽しんでください!

Manner 1

演奏中におしゃべりはしないでね!

おしゃべりは、いっしょうけんめい音楽をきいている人にとって、とても耳ざわり。音がよくきこえるように作られているホールでは、小さなひそひそ声でも、ホール中にひびきわたってしまいます。

Manner 2

たちあるきもNG! お手洗いは開演前に

演奏中に立ち歩いてはいけません。
せっかく集中してきいているのに、気が散ってしまいます。
お手洗いはコンサートが始まる前や、休憩中にすませておきましょう。もしどうしても我慢できないとき、気分が悪いときは、静かにホールの外に出るようにしましょう。

Manner 3

スマートフォンの電源はOFF!

もし演奏中に、突然スマートフォンやケータイの着信音がなりひびいたとしたら…。オーケストラも客席にいる私たちも、集中力がとぎれてしまい、音楽どころではありません。電源は必ず切っておきましょう。でも演奏会が終わった後の拍手中（カーテンコール）に、出演者をカメラきのうでさつえいするのはOK。コンサートの思い出をおさめてくださいね。

Manner 4

演奏が終わったら大きな拍手を!

オーケストラの演奏が終わったら、
大きな拍手をプレイヤーにおくってください。
みなさんの拍手が大きければ大きいほど、
さらにはりきって演奏してくれることでしょう。

MANNER OF CONCERT…

2007年8月5日 発行　2023年3月31日 改訂
制作・発行　公益財団法人NHK交響楽団
構成・文　猪股正幸
AD・デザイン　Azone+Associates
イラスト　寺井さおり
写真提供　ヤマハ株式会社/株式会社 松尾楽器商会

※文中の楽器名や音楽用語の表記はNHK交響楽団の基準にもとづいています。